



学校だより

山辺里小学校

学校HP <http://saber-e.murakami.ed.jp>

令和3年6月15日 第3号

通り過ぎる車の会釈

校長 小川 誠

毎朝、校門に立ち、登校してくる子どもたちを待っていると、その間にたくさんの車が行き来します。こちらが少し頭を下げると、通り過ぎる間際、車の中からこちらに顔を向け軽く頭を下げてくださいる方がいます。

それにしても、行き来する車やバイク、自転車の皆様は、なぜこちらに会釈を返してくださいるのでしょうか。お子さんやお孫さんが山辺里小に通っている方もおられるかもしれません。しかし、どうもそればかりではないようです。

私は、その会釈を「山辺里の子どもたちを見守っていますよ」という、地域の皆様からのサインだと思っています。毎朝、その温かなサインをいただくたびに、改めてたくさんの地域の皆様が子どもたちを見守ってくださっていることを実感し、私からも「学校でも、いい子を育てます」という思いを込めてあいさつを返します。このわずかな時間、山辺里小に勤務させていただいている幸せを感じます。

山辺里小では、1年間を通して「あいさつ運動」を行っています。校内では、運営委員会の子どもたちが、毎朝児童玄関であいさつを呼び掛けたり、低中学年の子供たちが、教務室や校長室へあいさつへやってきました。まだまだ伸びしろはあるものの、4月に比べ、少しずつあいさつの声が響くようになってきています。

ただ、これは校内での姿です。本当にあいさつができるようになっているかどうかは、ご家庭や地域での様子に表れると思うのです。

あいさつは、人間関係を築くための大切なコミュニケーションの第一歩です。相手に届かなければ、自分の思いや考えを伝えることはできません。自分が相手を思いやっていることも伝わりません。「相手に伝わっているかどうか」をしっかりと意識して、きちんと伝えようとすることが大切なのです。

山辺里小の子どもたちは、学校では4月に比べ元気にあいさつができるようになってきています。でも、ご家庭や地域ではいかがでしょうか。

「おはよう」「おやすみなさい」「行ってきます」「ただいま」のあいさつ。加えて、「ありがとう」「ごめんなさい」などが、ご家庭や地域でもしっかり言えるようになれば、相手に自分の思いや考えを伝えられる素晴らしい子どもたちになるはずです。

そのために、ご家庭や地域の皆様からも力を貸していただきたいと思っております。子どもたちに、ぜひあいさつの言葉を掛けてください。

そして、「山辺里地域の自慢は、『あいさつのできる子どもたち』です」と言えるようにしていきたいと思っています。ご協力をお願いいたします。

